コラム

2006/05（１）

こんにちは。副園長をしております、佐藤良文（さとうりょうぶん）と申します。

遅ればせながら、お子様の「たんぽぽぐみ」ご入会、おめでとうございます。お母さんと手をつないで、幼稚園に入ってくる表情がみなニコニコしていて、こちらまで嬉しくなってしまいます。

さて、私は現在、小学校１年（娘）幼稚園年中（息子）と生後８ヶ月の娘がおります。勘違いしたり、泣かせたり、困らされたり、妻とぶつかったり（笑）しながら経験したこと、気づいたことなど、「もしや皆様のご参考になることが…」と思い、少しづつ綴らせていただこうと思います。

もちろん、たんぽぽ組にはベテランのお母さん、初めてのお母さん両方がいらっしゃいます。同じ「２歳児のお母さん」として、それぞれ新鮮な思いでお越し頂いていると思いますが、経験の力も大きい分野ですので、ぜひお母さん同士の交流の輪も広がるといいなぁ、と願っています。

子育ての「夢と現実」

第１回ですので、少々大げさなタイトルですが、「夢」と「現実」としてみました。

第一子誕生の時、「名前は一生のプレゼント。その人となりを作るから生半可には決められない」と、ものすごく力を入れて考えたのを覚えています。女の子でしたから、「微笑みを持った子どもに」と願ってつけました。そう、名前って、親からの最初の「願い」なんだろうと思います。

でも特に最初の頃は、殆どが寝顔か、泣き顔。「何も問題はない」はずなのに泣き続ける夜１１時、抱っこして廊下を往復していました。

笑顔は、単純に言えば「見えて、まねして」出ているんだそうですね。ですけれどそれを知らなかった僕は、「なぜ笑わないのか」「いつまで待てばいいのか」と果てしなく空を仰いだものです。

そこから抜け出せたのは、**「何故だか理由は知らないが、とにかく泣きたいんだね。分かった、付き合うよ」**という構えでした。「泣きやませよう（笑わせよう）」はとりあえず横へ置いて、「付き合う」ことにしたら楽になったのです。目線が出るようになって、「笑ってくれた」時の喜びは、とても大きかったのを覚えています。

子育てに、マニュアルは…？

さて、「子育ては、マニュアルで読んだ通りにならないのが普通。まずは子どもを見て」と、しばしば言われます。確かに子どもの取扱説明書なんてありません。

でも不安になるのが親心。寝ないと不安「なぜ？」、寝てても不安「なぜ？」。「何か」を求めたくなります。だから、**基本的な発達の仕組みを知っていることは、とても大事**だと思うのです。

最終的には「理由はよく分からないが、とにかく付き合うよ」になることも、もちろんあります。むしろ、**どんな時でも誤解を残したまま付き合っている、というのが正しいかも知れません。**

大人が「仕組みを納得していること」は、もちろん推論でしかないのですが、こちらが大きく構えていられるための、有効な手段です。

「だって本人が言うんです…」

このことは同時に、「現実こうなんだから…」に流される危険も少しはセーブしてくれると思います。ただ「欲しがるから」「嫌がるから」「今までできなかったから」というのは一見、子どもを尊重しているようでいて、大人の責任逃れになる危険性があります。子どもの現実（例えば、「欲しい」と言いたくなる気持ち）を認めつつ、理屈を指針として、親子双方の「次の一歩」を考えていくことが、きっと「共に育つ」楽しみにもなるのではないか。見果てぬ「夢」でもなく、思い通りにならない「現実」のままでもなく、どちらにも立脚する「ビジョン」を持てたら幸せだと思います。

何にせよ、**子どもの一番近くにいて、その些細な変化も発見できる**のが、お母さんの醍醐味だと思います。身近な「次の一歩」を、ぜひ見てあげてください。そして、たんぽぽぐみの輪の中で、それぞれの子育てを考え、実践できるお母さんになっていただきたいと、心より願っております。